

ぶんかざいまるちなび

文化財知ナビ

No.34

このニュースレターは、「文化財に親しむ機会の提供に関する事業」の一つとして、身近な文化財情報をはじめ、文化財を活用した事業などの紹介を行っています。ぜひ学校教育や生涯学習の場で広くご利用ください。

むかわ町「ホベツアラキリュウ化石」

ほっかいどうしていてんねんきねんぶつ
が北海道指定天然記念物に！！

へいせい ねん がつ にちつ ちやう
平成29年9月29日付で、むかわ町にある「ホベツアラキリュウ化石」が北海道の天然記念物に指定されました！！

◆天然記念物とは？
動物や植物、土地のなりたちやめずらしい岩などで、学問的に価値の高いものです。化石は地中にうもれていた骨が石となったことから、天然記念物となります。

◆ホベツアラキリュウ化石とは？
8,300万～8,100万年前の、海にすんでいた「は虫類（海棲大型は虫類）」の化石です。1975年に地元住民により発見され、1989年に日本で最初に学会へ報告された首長竜（正式には長頸竜と言います）で、発見者の名前から「ホベツアラキリュウ」と名付けられました。

◆恐竜ではないの？
恐竜は陸上にすんでいた「は虫類」で、体の真下に足がある動物です。海にすんでいたものは恐竜ではなく、「海棲は虫類」と言います。そのため、海にすんでいたホベツアラキリュウは恐竜ではありません。ホベツアラキリュウとほぼ同じ時期の北アメリカ大陸ではティラノサウルス・トリケラトプスなどの恐竜が動きまわっていました。

◆どうして海にすんでいた生物の化石がむかわ町穂別の山中でみつかると？
ホベツアラキリュウが生きていた8,300万～8,100万年前の北海道の真ん中は暖かい海でした。その後、数百万年前から土地が高くなりはじめ、現在のような陸地となりました。



むかわ町穂別博物館に展示されている
復元されたホベツアラキリュウ化石

◆どこで見ることができるの？

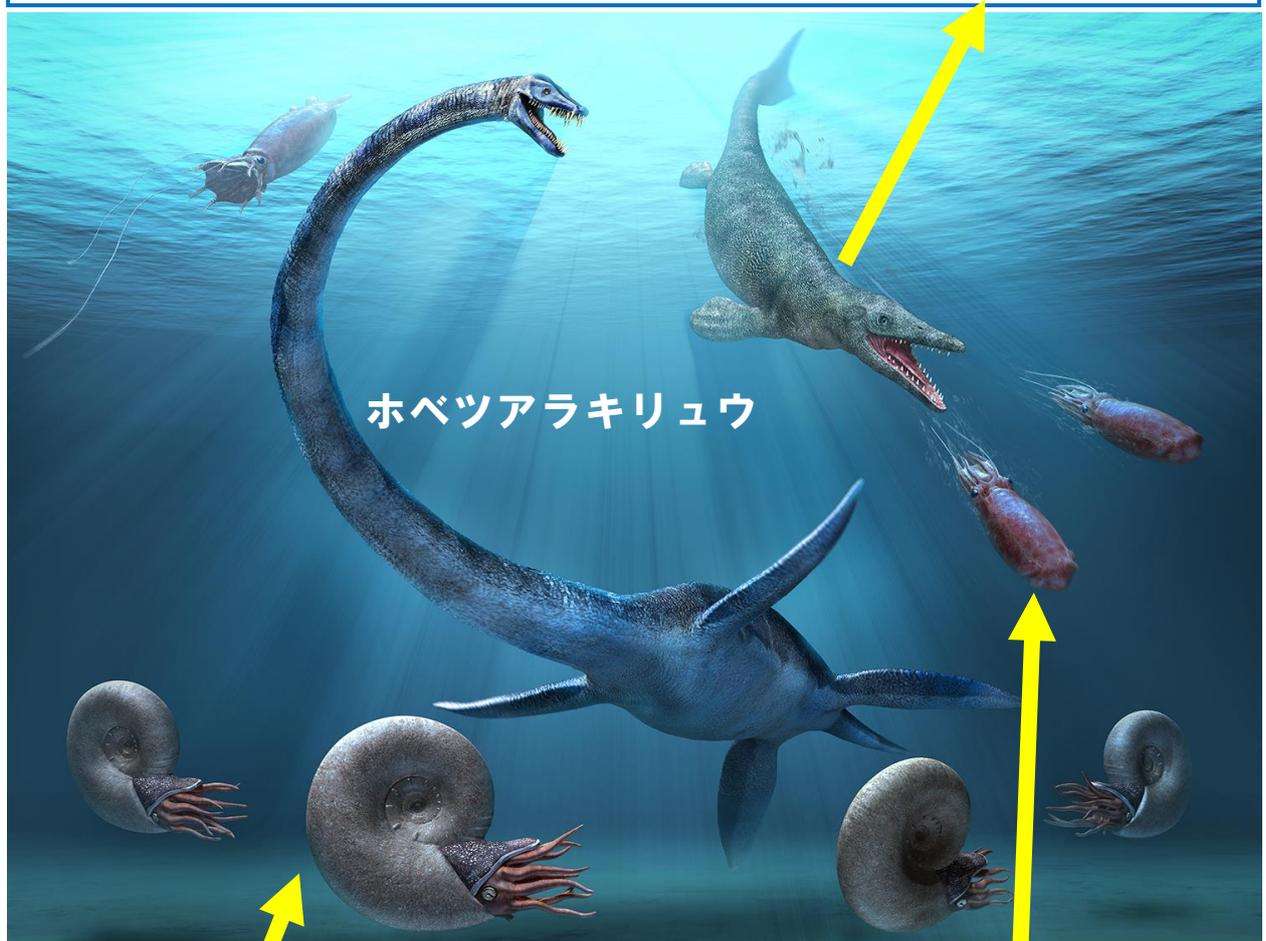
むかわ町 穂別博物館（住所：むかわ町 穂別80番地6）で見ることができます。

<http://www.town.mukawa.lg.jp/2409.htm>

ホベツアラキリュウとなかまたち

ホベツアラキリュウはこんな姿をしていたと考えられているよ。化石の産出から、同じ時期の海には、他にもこんな生物がすんでいたことがわかっているんだ。

ティロサウルス：モササウルス類（ヘビ・トカゲのなかま）の一種で、世界中の海にすんでいました。当時の海にすんでいた、もっとも強いは虫類の一つと考えられています。ホベツアラキリュウ化石産出地のすぐ近くで発見され、長さは5.5 mです。



アンモナイト：ユウパキディスクスという種類のアンモナイトです。当時の海に非常に多く生きていたイカ・タコのなかまで、ホベツアラキリュウ化石と一緒に発見されています。外側のカラの直径は最大で60cmくらいになります。

コウモリダコ：ナナイモテウティスという絶滅したコウモリダコです。海の中に浮かんでいるプランクトンなどを食べていたようで、むかわ町穂別であごの化石が発見されています。長さは1.1mです。

※画像は全てむかわ町穂別博物館提供です。

文化財ニュースレター 文化財まる知ナビ No.34

発行 平成29年10月30日
【お問い合わせはこちらへ】

編集・連絡先 北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課
電話 011-231-4111（内線）35-620 メール kyoiku.bunka2@pref.hokkaido.lg.jp